



# Red Hat Ansible Automation Platform 2.4

## Automation Hub のスタートガイド

Ansible Collection コンテンツのデフォルトサーバーとしての Red Hat Automation Hub の設定



# Red Hat Ansible Automation Platform 2.4 Automation Hub のスタートガイド

---

Ansible Collection コンテンツのデフォルトサーバーとしての Red Hat Automation Hub の設定

## 法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

このガイドでは、Red Hat Automation Hub を認定 Ansible Collection コンテンツのデフォルトソースとして使用する際に必要な初期手順を説明します。

---

## 目次

はじめに .....	3
RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ) .....	4
第1章 AUTOMATION HUB と PRIVATE AUTOMATION HUB の違い .....	5
第2章 AUTOMATION HUB での API トークンの作成 .....	6
2.1. AUTOMATION HUB での API トークンの作成 .....	6
2.2. PRIVATE AUTOMATION HUB での API トークンの作成 .....	6
2.3. オフライントークンをアクティブな状態に維持 .....	7
第3章 RED HAT AUTOMATION HUB をコンテンツのプライマリーソースとして設定する .....	8
3.1. CLI を使用して RED HAT AUTOMATION HUB をプライマリーコンテンツソースとして設定する .....	8
3.2. WEB コンソールを使用して RED HAT AUTOMATION HUB をプライマリーコンテンツソースとして設定する .....	9
第4章 PRIVATE AUTOMATION HUB のユーザーアクセスの設定 .....	12
4.1. ユーザーアクセスの実装 .....	12
4.2. PRIVATE AUTOMATION HUB の表示専用アクセスの有効化 .....	16
第5章 RED HAT AUTOMATION HUB へのコンテンツのアップロード .....	18
5.1. AUTOMATION HUB へのコレクションのアップロード .....	18
5.2. AUTOMATION HUB でのコレクションの削除 .....	19



## はじめに

Red Hat Ansible Automation Hub は、Red Hat および当社のテクノロジーパートナーがサポートするコンテンツをすばやく見つけて使用できる場所を提供します。Red Hat サブスクリプションをお持ちのお客様は、このコンテンツを使用して、きわめて要求の厳しい環境に対応した自動化ソリューションを提供できます。

Ansible Galaxy クライアント **ansible-galaxy** は、コマンドラインからロールおよびコレクションを管理します。**ansible-galaxy** クライアントが認定済みでサポートされている Ansible Collection を可能な限り使用するには、**ansible.cfg** ファイルを更新して、Ansible Collection のプライマリーソースとして Red Hat Automation Hub を使用します。

## RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

このドキュメントの改善に関するご意見がある場合や、エラーを発見した場合は、<https://access.redhat.com> から Technical Support チームに連絡してください。



# 第1章 AUTOMATION HUB と PRIVATE AUTOMATION HUB の違い

Red Hat Ansible Automation Platform は、自動化コンテンツの中心的な場所として Automation Hub を使用します。自動化コンテンツは、ダウンロードして Ansible Automation に統合できます。次の2種類のハブを使用できます。

## Automation Hub

Red Hat によって [Red Hat Hybrid Cloud Console](#) 上でホストされます。Red Hat のサポート対象または認定コンテンツのみが含まれます。

## Private Automation Hub

これは自己ホスト型のコンテンツ管理システムです。これを使用すると、あらゆる種類の Ansible コンテンツにアクセスして管理し、自動化コンシューマーが利用できる Ansible コンテンツのコレクションとバージョンを選択できます。

Private Automation Hub を使用すると、次の3種類のコンテンツにアクセスできます。

- Red Hat の認定およびサポート対象コンテンツは、[Red Hat Hybrid Cloud Console](#) の Automation Hub にあります。
- Ansible Galaxy のコミュニティコンテンツ。
- 組織によって作成およびキュレートされ、ローカルで共有されるプライベートコンテンツ。

## 第2章 AUTOMATION HUB での API トークンの作成

コレクションをアップロードまたはダウンロードして Automation Hub と対話するには、API トークンを作成する必要があります。Automation Hub API トークンは、**ansible-galaxy** クライアントを Red Hat Automation Hub サーバーに対して認証します。

API トークンを作成する方法は、使用している Automation Hub のタイプによって異なります。

- Automation Hub はオフライントークン管理を使用します。[Automation Hub での API トークンの作成](#) を参照してください。
- Private Automation Hub は API トークン管理を使用します。[Private Automation Hub での API トークンの作成](#) を参照してください。

### 2.1. AUTOMATION HUB での API トークンの作成

Automation Hub では、**トークン管理** を使用して API トークンを作成できます。API トークンは、コンテンツを保護するために使用されるシークレットトークンです。

#### 手順

1. [Red Hat Hybrid Cloud Console](#) で [Ansible Automation Platform](#) に移動します。
2. ナビゲーションパネルから、**Automation Hub** → **Connect to Hub** を選択します。
3. **Offline token** で、**Load token** をクリックします。
4. **Copy to clipboard** アイコンをクリックして API トークンをコピーします。
5. API トークンをファイルに貼り付け、安全な場所に保存します。



#### 重要

API トークンは、コンテンツを保護するために使用されるシークレットトークンです。API トークンを安全な場所に保存します。

これで、Automation Hub をデフォルトのコレクションサーバーとして設定したり、**ansible-galaxy** コマンドラインツールを使用してコレクションをアップロードしたりする場合に、API トークンを使用できるようになりました。



#### 注記

API トークンには有効期限がありません。

### 2.2. PRIVATE AUTOMATION HUB での API トークンの作成

Private Automation Hub では、API トークン管理を使用して API トークンを作成できます。API トークンは、コンテンツを保護するために使用されるシークレットトークンです。

#### 前提条件

- Red Hat Ansible Automation Platform の有効なサブスクリプション認証情報。

#### 手順

J 10x

1. Private Automation Hub にログインします。
2. ナビゲーションパネルから、**Collections** → **API token** を選択します。
3. **Load Token** をクリックします。
4. API トークンをコピーするには、**Copy to clipboard** アイコンをクリックします。
5. API トークンをファイルに貼り付け、安全な場所に保存します。



### 重要

API トークンは、コンテンツを保護するために使用されるシークレットトークンです。API トークンを安全な場所に保存します。

API トークンは、Automation Hub をデフォルトのコレクションサーバーとして設定するか、**ansible-galaxy** コマンドラインツールを使用してコレクションをアップロードできるようになりました。



### 注記

API トークンには有効期限がありません。

## 2.3. オフライントークンをアクティブな状態に維持

オフライントークンは、30 日の非アクティブ後に有効期限が切れます。オフライントークンを定期的に更新することで、オフライントークンの有効期限が切れないようにすることができます。

オンライントークンをアクティブにしておくと、アプリケーションがユーザーに代わってアクションを実行する場合に便利です。たとえば、ユーザーがオフラインのときにアプリケーションが定期的なデータバックアップを実行できます。



### 注記

オフライントークンの有効期限が切れた場合は、新しいトークンを要求する必要があります。

### 手順

- 次のコマンドを実行して、トークンの有効期限が切れないようにします。

```
curl https://sso.redhat.com/auth/realms/redhat-external/protocol/openid-connect/token -d grant_type=refresh_token -d client_id="cloud-services" -d refresh_token="{{ user_token }}" --fail --silent --show-error --output /dev/null
```

## 第3章 RED HAT AUTOMATION HUB をコンテンツのプライマリーソースとして設定する

Ansible Certified Content Collections にアクセスするには、Red Hat Automation Hub をコンテンツのプライマリーソースとして設定します。Automation Hub は、コマンドラインインターフェイス (CLI) または Web コンソールで設定できます。

### 3.1. CLI を使用して RED HAT AUTOMATION HUB をプライマリーコンテンツソースとして設定する

Automation Hub を設定するには、**ansible.cfg** 設定ファイルを更新する必要があります。デフォルトでは、**ansible.cfg** 設定ファイルは **/etc/ansible/** ディレクトリーにあります。Automation Hub を使用すると、認定され、サポートされているコレクションにアクセスできます。

#### 前提条件

- Automation Hub サーバーの API トークンを取得している。詳細は、[Red Hat Automation Hub API トークンの作成](#) を参照してください。



#### 重要

新しいトークンを作成すると、Automation Hub 用に生成された以前のトークンがすべて失効します。以前のトークンを使用して作成された Automation Controller またはスクリプトを更新して、新しいトークンを含めます。

#### 手順

- ansible.cfg** ファイルを開きます。
- [galaxy]** セクション配下に **server\_list** オプションを追加し、1つ以上のサーバー名を含めます。
- 各サーバー名に新しいセクションを作成します。

```
[galaxy_server.<server_name>_]
```

- 各サーバー名に **url** オプションを設定します。

```
https://<server_fully_qualified_domain_name>/api/galaxy/
```

- オプション: **auth\_url** オプションを設定します。コミュニティーの Ansible Galaxy には **auth\_url** が必要ありません。
- Automation Hub サーバーの API トークンを設定します。

#### 例

次の **ansible.cfg** 設定ファイルの例は、優先順位の高い順に複数のサーバーを設定する方法を示しています。Automation Hub がプライマリーソースとして設定され、Ansible Galaxy サーバーがセカンダリーソースとして設定されています。

**ansible.cfg**

```
[galaxy]
server_list = automation_hub, my_org_hub

[galaxy_server.automation_hub]
url=https://console.redhat.com/api/automation-hub/content/published/ ❶
auth_url=https://sso.redhat.com/auth/realms/redhat-external/protocol/openid-connect/token

token=my_ah_token

[galaxy_server.my_org_hub]
url=https://automation.my_org/api/galaxy/content/rh-certified/ ❷
username=my_user
password=my_pass
```

- ❶ サーバー URL の後に末尾のスラッシュ / を含めます。
- ❷ `/api/galaxy/content/rh-certified/` サブディレクトリーを Automation Hub サーバー URL に含めます。必要に応じて、**rh-certified** を **community** に置き換えて、コミュニティリポジトリーを参照できます。



#### 注記

301 リダイレクトを防ぐために、すべての API URL の末尾にスラッシュ / を付ける必要があります。

これで Automation Hub がプライマリーサーバーとして設定されました。サポート対象のコレクションのダウンロードとインストールを開始できます。

#### 関連情報

サーバーリストの設定オプションおよび Ansible Galaxy を Ansible コンテンツソースとして使用方法の詳細は、[Ansible Galaxy User Guide](#) を参照してください。

## 3.2. WEB コンソールを使用して RED HAT AUTOMATION HUB をプライマリーコンテンツソースとして設定する

Automation Hub を設定するには、認証情報を作成し、それを組織の Galaxy 認証情報フィールドに追加する必要があります。Automation Hub を使用すると、認定され、サポートされているコレクションにアクセスできます。

#### 前提条件

- Automation Hub サーバーの API トークンを取得している。詳細は、[Red Hat Automation Hub API トークンの作成](#) を参照してください。



#### 重要

新しいトークンを作成すると、Automation Hub 用に生成された以前のトークンがすべて失効します。以前のトークンを使用して作成した Automation Controller またはスクリプトがある場合は、更新してください。

## 手順

- Automation Controller に移動します。
- 新規認証情報を作成します。
  - Resources** → **Credentials** に移動します。
  - Add** をクリックします。
  - Name** フィールドに新規の認証情報の名前を入力します。
  - オプションで、説明を入力し、認証情報が関連付けられている組織の名前を入力するか、選択します。
  - Organization** で、認証情報を使用する組織を選択します。
  - 認証情報のタイプとして **Ansible Galaxy/Automation Hub API Token** を選択します。
  - Type Details** で、以前に作成した **Galaxy Server URL**、**Authentication Server URL**、および **API Token** を入力します。
  - Save** をクリックします。
- 組織の **Galaxy Credentials** フィールドから作成した認証情報を選択します。
  - Access** → **Organizations** に移動します。
  - Galaxy 認証情報を追加する組織を選択します。
  - Edit** をクリックします。
  - Galaxy Credentials で、**Search** アイコンをクリックします。
  - Automation Hub 用に作成した認証情報を選択し、リストの先頭に配置します。
  - オプション: Ansible Galaxy などのコンテンツのセカンダリソースがある場合は、Automation Hub 用に作成した認証情報の後にこの認証情報を配置します。
  - Select** をクリックします。
  - Save** をクリックします。

## 検証

認証情報を検証するには、既存のソース管理管理 (SCM) ベースのプロジェクトを選択し、**Sync Project** アイコンをクリックして更新します。

- プロジェクトリポジトリに移動します。
- collections/requirements.yml** ファイルを使用するプロジェクトを選択します。
- Sync Project** アイコンをクリックしてプロジェクトを更新します。

プロジェクトの **Status** が **Successful** になると、認証情報は有効です。

これで Automation Hub がプライマリーサーバーとして設定されました。サポート対象のコレクションのダウンロードとインストールを開始できます。

## 関連情報

- サーバリストの設定オプションおよび Ansible Galaxy を Ansible コンテンツソースとして使用する方法の詳細は、[Ansible Galaxy User Guide](#) を参照してください。
- 認証情報の作成と使用の詳細は、「Automation Controller User Guide v4.2.1」の [Credentials](#) セクションを参照してください。

## 第4章 PRIVATE AUTOMATION HUB のユーザーアクセスの設定

特定のパーミッションを持つユーザーのグループを作成して、Automation Hub のコンテンツおよび機能へのユーザーアクセスを管理できます。

### 4.1. ユーザーアクセスの実装

ユーザーアクセスは、特定のユーザーに個別にパーミッションを割り当ててではなく、システムオブジェクト (ユーザー、グループ、名前空間) へのパーミッションの管理に基づいています。

パーミッションは、作成するグループに割り当てます。グループを作成したら、グループにユーザーを割り当てることができます。グループ内の各ユーザーは、そのグループ内に割り当てられたパーミッションを持つこととなります。

Private Automation Hub で作成されるグループは、内部コレクションの管理、ユーザーアクセスの設定、リポジトリ管理を担当するシステム管理者から、内部で開発されたコンテンツを整理して Private Automation Hub にアップロードするためのアクセス権を持つグループまで多岐にわたります。

#### 関連情報

- システムパーミッションに関する詳細は、[Automation Hub permissions](#) を参照してください。

#### 4.1.1. Private Automation Hub のデフォルトのユーザーアクセス

Automation Hub をインストールすると、デフォルトの **admin** ユーザーが **Admin** グループに自動的に作成されます。**Admin** グループには、システム内のすべてのパーミッションが割り当てられます。

次のセクションでは、Private Automation Hub にアクセスするユーザーを整理し、目的を達成するために必要なパーミッションをユーザーに提供することに関連するワークフローを説明します。利用可能なすべてのパーミッションの完全な一覧および説明は、[パーミッション参照テーブル](#)を参照してください。

#### 4.1.2. Private Automation Hub での新しいグループの作成

ユーザーがシステム内の指定された機能にアクセスできる権限を作成し、Private Automation Hub のグループに割り当てることができます。デフォルトでは、Automation Hub の **Admin** グループにはすべての権限が割り当てられています。このグループは初回ログイン時に使用可能になります。Private Automation Hub のインストール時に作成された認証情報を使用してください。

詳細は、「Automation Hub のスタートガイド」の [Private Automation Hub での新しいグループの作成](#) を参照してください。

#### 4.1.3. グループへの権限の割り当て

デフォルトでは、新しいグループには権限が割り当てられていません。ユーザーがシステム内の特定の機能にアクセスできる権限を Private Automation Hub のグループに割り当てることができます。

最初にグループを作成するときに権限を追加することも、既存のグループを編集して権限を追加または削除することもできます。

詳細は、「Automation Hub のスタートガイド」の [グループへの権限の割り当て](#) を参照してください。

#### 4.1.4. 新しいユーザーの作成とパーミッションの付与



Private Automation Hub でユーザーを作成した後、グループに追加することでパーミッションを付与できます。システム内の機能にアクセスできる各グループが、割り当てられたパーミッションのレベルに関連付けられます。

#### 前提条件

- **user** パーミッションがあり、Private Automation Hub でユーザーを作成できる。

#### 手順

1. Private Automation Hub にログインします。
2. ナビゲーションパネルから、**User Access** → **Users** を選択します。
3. **Create user** をクリックします。
4. フィールドに情報を入力します。**Username** および **Password** が必要です。
5. オプション: ユーザーをグループに割り当てるには、**Groups** フィールドをクリックし、グループのリストから選択します。
6. **Save** をクリックします。

新しいユーザーが **Users** ページのリストに表示されます。

#### 4.1.5. スーパーユーザーの作成

チーム全体で管理を分担する場合は、Private Automation Hub でスーパーユーザーを作成できます。

#### 前提条件

- **Super user** である。

#### 手順

1. Private Automation Hub にログインします。
2. ナビゲーションパネルから、**User Access** → **Users** を選択します。
3. スーパーユーザーにするユーザーを選択します。そのユーザーの **User details** が表示されません。
4. **User type** で、**Super User** を選択します。

これで、ユーザーに **Super user** のパーミッションが付与されます。

#### 4.1.6. 既存のグループへのユーザーの追加

グループを作成するときに、グループにユーザーを追加できます。ただし、既存のグループにユーザーを手動で追加することもできます。

詳細は、「Automation Hub のスタートガイド」の [既存のグループへのユーザーの追加](#) を参照してください。

#### 4.1.7. コンテンツキュレーターのための新しいグループの作成

組織内のコンテンツのキュレーションを支援するために、Private Automation Hub に新しいグループを作成できます。このグループは、Private Automation Hub で公開するために内部で開発したコレクションに役立ちます。

コンテンツ開発者が名前空間を作成し、内部で開発したコレクションを Private Automation Hub にアップロードできるようにするには、先にグループを作成および編集し、必要な権限を割り当てる必要があります。

### 前提条件

- Private Automation Hub の管理者権限があり、グループを作成できる。

### 手順

1. Private Automation Hub にログインします。
2. ナビゲーションパネルから **User Access** → **Groups** を選択し、**Create** をクリックします。
3. モーダルのグループの **Name** として **Content Engineering** を入力し、**Create** をクリックします。新しいグループが作成され、**Groups** ページが開きます。
4. **Permissions** タブで、**Edit** をクリックします。
5. **Namespaces** で、**Add Namespace**、**Upload to Namespace**、および **Change Namespace** の権限を追加します。
6. **Save** をクリックします。  
割り当てた権限を使用して新しいグループが作成されます。その後、グループにユーザーを追加できます。
7. **Groups** ページの **Users** タブをクリックします。
8. **Add** をクリックします。
9. ユーザーを選択し、**Add** をクリックします。

#### 4.1.8. Automation Hub のパーミッション

パーミッションは、各グループが特定のオブジェクトに対して実行できる定義済みのアクションのセットを指定するものです。この表に記載されているパーミッションに基づいて、グループに必要なアクセスレベルを決定してください。

表4.1パーミッションの参照表

オブジェクト	パーミッション	説明
コレクション 名前空間	名前空間の追加	これらのパーミッションを持つグループは、名前空間の作成、名前空間へのコレクションのアップロード、および名前空間の削除を行うことができます。
	名前空間へのアップロード	
	名前空間の変更	
	名前空間の削除	

オブジェクト	パーミッション	説明
コレクション	Ansible リポジトリコンテンツの変更  コレクションの削除	このパーミッションを持つグループは、次のアクションを実行できます。  承認機能を使用して、リポジトリ間でコンテンツを移動します。  コンテンツを <b>staging</b> リポジトリから <b>published</b> または <b>rejected</b> リポジトリに移動する機能を認定または拒否します。  コレクションを削除します。
ユーザー	ユーザーの表示  ユーザーの削除  ユーザーの追加  ユーザーの変更	これらのパーミッションが割り当てられたグループは、ユーザー設定の管理および Private Automation Hub へのアクセスが可能です。
グループ	グループの表示  グループの削除  グループの追加  グループの変更	これらのパーミッションが割り当てられたグループは、グループ設定の管理および Private Automation Hub へのアクセスが可能です。
コレクションリモート	コレクションリモートの変更  コレクションリモートの表示	これらの権限を持つグループは、 <b>Collection</b> → <b>Repositories</b> に移動して、リモートリポジトリを設定できます。
コンテナ	コンテナの名前空間権限の変更  コンテナの変更  イメージタグの変更  新規コンテナの作成  既存コンテナへのプッシュ  コンテナリポジトリの削除	これらのパーミッションが割り当てられたグループは、Private Automation Hub でコンテナリポジトリを管理できます。
リモートレジストリー	リモートレジストリーの追加  リモートレジストリーの変更  リモートレジストリーの削除	これらのパーミッションが割り当てられたグループは、Private Automation Hub に追加されたリモートレジストリーを追加、変更、または削除できます。

オブジェクト	パーミッション	説明
タスク管理	タスクの変更 タスクの削除 全タスクの表示	これらのパーミッションが割り当てられたグループは、Private Automation Hub の <b>Task Management</b> に追加されたタスクを管理できます。

#### 4.1.9. Private Automation Hub からのユーザーの削除

ユーザーアカウントを削除すると、ユーザーの名前とメールアドレスが Private Automation Hub から完全に削除されます。

##### 前提条件

- Private Automation Hub に **user** パーミッションがある。

##### 手順

1. Private Automation Hub にログインします。
2. ナビゲーションパネルから、**User Access** → **Users** を選択します。
3. **Users** をクリックして、現在のユーザーの一覧を表示します。
4. 削除するユーザーの横にある **More Actions** アイコン **⋮** をクリックしてから、**Delete** をクリックします。
5. 警告メッセージの **Delete** をクリックして、ユーザーを永続的に削除します。

## 4.2. PRIVATE AUTOMATION HUB の表示専用アクセスの有効化

表示専用アクセスを有効にすると、Private Automation Hub のコレクションまたは名前空間をログイン不要で表示できるパーミッションをユーザーに付与できます。表示専用アクセスを使用すると、ソースコードの表示またはダウンロードを制限しながら、権限のないユーザーとコンテンツを共有できます。このユーザーに、Private Automation Hub のオブジェクトを編集するパーミッションが付与されることはありません。

Private Automation Hub の表示専用アクセスを有効にするには、Red Hat Ansible Automation Platform インストーラーでインベントリーファイルを編集する必要があります。

- Ansible Automation Platform の新しいインスタンスをインストールする場合は、他のインストール設定とともに、**automationhub\_enable\_unauthenticated\_collection\_access** パラメーターと **automationhub\_enable\_unauthenticated\_collection\_download** パラメーターを **inventory** ファイルに追加します。
- 既存の Ansible Automation Platform インストールを更新して表示専用アクセスを追加する場合は、**automationhub\_enable\_unauthenticated\_collection\_access** パラメーターと **automationhub\_enable\_unauthenticated\_collection\_download** パラメーターを **inventory** ファイルに追加し、**setup.sh** スクリプトを実行して更新を適用します。

##### 手順

1. インストーラーに移動します。

### バンドルのインストーラー

```
$ cd ansible-automation-platform-setup-bundle-<latest-version>
```

### オンラインインストーラー

```
$ cd ansible-automation-platform-setup-<latest-version>
```

2. テキストエディターで **inventory** ファイルを開きます。
3. 以下の例のように、**automationhub\_enable\_unauthenticated\_collection\_access** パラメーターおよび **automationhub\_enable\_unauthenticated\_collection\_download** パラメーターをインベントリーファイルに追加し、両方を **True** に設定します。

```
[all:vars]
```

```
automationhub_enable_unauthenticated_collection_access = True 1  
automationhub_enable_unauthenticated_collection_download = True 2
```

- 1** 承認されていないユーザーがコレクションを表示できるようにする
- 2** 未設定のユーザーがコレクションをダウンロードできるようにする

4. **setup.sh** スクリプトを実行します。インストーラーにより、Private Automation Hub への表示専用アクセスが有効になります。

### 検証

インストールが完了したら、ログインせずに Private Automation Hub のコンテンツを表示して、Private Automation Hub の表示専用アクセスがあることを確認します。

1. Private Automation Hub に移動します。
2. ログイン画面で **View only mode** をクリックします。

ログインせずに、名前空間やコレクションなど、Automation Hub でコンテンツを表示できることを確認します。

## 第5章 RED HAT AUTOMATION HUB へのコンテンツのアップロード

Automation Hub は、認定済みのサポートされたコレクションをパートナーからお客様に提供します。各コレクションには、モジュール、ロール、プラグイン、ドキュメントなどのコンテンツが含まれます。初めてコレクションを Automation Hub にアップロードすると、パートナーエンジニアリングチームがそのコレクションを認定に向けてレビューします。

Automation Hub ユーザーインターフェイスまたは **ansible-galaxy** クライアントを使用して、コレクションをアップロードまたは削除して、コレクションを管理できます。

### 5.1. AUTOMATION HUB へのコレクションのアップロード

作成したコレクションを Ansible コミュニティーの他のメンバーと共有する場合は、それを Automation Hub にアップロードできます。コレクションを Automation Hub にアップロードすると、パートナーエンジニアリングチームがそのコレクションを認定に向けてレビューします。

コレクションは、Automation Hub ユーザーインターフェイスまたは **ansible-galaxy** クライアントのいずれかを使用してアップロードできます。

#### 前提条件

- Red Hat Automation Hub に **ansible-galaxy** クライアントを設定している。
- 名前空間が1つ以上ある。
- **ansible-test sanity** ですべてのコンテンツを実行している。
- Red Hat Connect パートナーである。詳細は、[Red Hat Partner Connect](#) を参照してください。

#### 手順

Automation Hub ユーザーインターフェイスを使用する場合は、次の手順を実行します。

1. ナビゲーションパネルから、**Collections** → **Namespaces** を選択します。
2. **My namespaces** タブで、コレクションのアップロード先の名前空間を見つけます。
3. **View collections** をクリックし、**Upload collection** をクリックします。
4. **New collection** モーダルで、**Select file** をクリックします。システムのファイルを見つけます。
5. **Upload** をクリックします。

**ansible-galaxy** クライアントを使用する場合は、次の手順を実行します。

- 以下のコマンドを入力します。

```
ansible-galaxy collection publish path/to/my_namespace-my_collection-1.0.0.tar.gz --api-key=SECRET
```

#### 次のステップ

- コレクションをアップロードすると、コレクションはパートナー認定プロセスに入ります。当社のパートナーエンジニアリングチームから、コレクションの認定ステータスについてご連絡いたします。

## 5.2. AUTOMATION HUB でのコレクションの削除

コレクションが他のコレクションに依存しない場合は、不要なコレクションを削除すると、コレクションをさらに管理できます。コレクションの **Dependencies** タブには、現在のコレクションを使用する他のコレクションのリストが表示されます。

### 前提条件

- 削除するコレクションに、他のコレクションとの依存関係がない。
- **Delete Collections** パーミッションがある。

### 手順

1. Private Automation Hub にログインします。
2. ナビゲーションパネルから、**Collections** → **Collections** を選択します。
3. コレクションを削除する前に、それに依存するコレクションがあるかどうかを確認します。
  - そのコレクションの **Dependencies** タブをクリックします。空白の場合は、コレクションを削除できます。**Dependencies** タブが空白でない場合は、コレクションを削除する前にその依存関係を削除する必要があります。
4. 削除するコレクションをクリックします。
5. **More Actions** アイコン **⋮** をクリックし、オプションを選択します。
  - a. **Delete entire collection** して、このコレクション内のすべてのバージョンを削除します。
  - b. **Delete version [number]** を削除して、このコレクションの現行バージョンを削除します。**Version** ドロップダウンメニューを使用してバージョンを変更できます。



### 注記

選択したコレクションに他のコレクションとの依存関係がある場合、その依存関係を削除するまで、これらのアクションは無効になります。**Dependencies** タブをクリックして、削除する依存関係のリストを表示してください。

6. 確認ウィンドウが開いたら、コレクションまたはバージョン番号が正しいことを確認し、**Delete** を選択します。